

文章力をつけるための新聞の活用はどうあればいいか

新聞に親しみ、読み取る力をつけることを通して

宮崎市立赤江東中学校
教諭 崎山 悦子

1 はじめに

本校は、大淀川の南部、宮崎空港を間近に控えた住宅街に位置している。また、学校周囲には田畑も広がり、穏やかな土地柄である。第1学年4学級、第2学年3学級、第3学年3学級、特別支援学級2学級、生徒総数330名が在籍している。

読書が好きな生徒が多く、10分間の休憩時間ですら、本を開く生徒が見られる。そして、昼休みの図書室は大勢の生徒に利用されている。そのように文章に親しんでいる割には新聞を読んでいる生徒は少ない。新聞の購読数が減少していると言われて久しいが、本校ではほとんどの家庭に毎朝新聞が配達されている。しかし、毎日読んでいる生徒は、3年生でも、一学級2～3名程度に過ぎない。多くは、「テレビ番組欄」「スポーツ欄」を開くのみで、社会面や家庭欄に目を通す生徒は少ない。

その要因として、「忙しくて時間がない」はともかくとして、「新聞を読む必要を感じない」生徒が大半である。いずれ社会に出て行く生徒にとって、新聞は必要不可欠な内容を備えている。いろいろなジャンルの文章に触れるためにも、社会に目を開くうえでも新聞は適切な教材であると考えられる。

そこで、年度当初より、国語の授業を通して、多岐にわたる情報やさまざまな文章に触れさせ興味を喚起してきた。また、社会の動きを知りそれについての意見を持つことの必要性など、意図的に物事をつかむ姿勢を話してきた。3年生では、公民の授業があるため、そうした内容に特化して読む生徒の姿が見られるようになった。そして、新聞を読み比べ、内容の相違点を見付けようとする生徒も出て

きた。

2 研究・実践の概要

前述したことから、本年度の取り組みとして、「新聞に親しみ、読み取る力をつける」ことを挙げたい。指定校初年度で、今までの蓄積がない中での実践であるが、できることから無理のない実践を作っていこうと考えた。

- 学級での新聞の活用
- 進路学習新聞づくり
- 文化発表会での国語弁論
- 作文指導
- 交流事業

書くことは自分の心の声を聞くことであり、書くことで、自分を深めることができる。そのためには、多くの情報が必要とされ、またその中から適切な情報を取捨選択せねばならない。その力を培うために、新聞を利用したい。

3 研究・実践の実際

(1) 帰りの会での新聞記事と感想発表

教室に新聞を置くと、生徒たちは自分の興味のあるページを開く。しかし、休憩時間の10分では、そのページしか読むことはできず、当初の目的が達成すると、興味は移っていく。そこで、作為的に「○○について述べなさい。」という課題を与え新聞を読ませるようにした。帰りの会で、自分の感想1分間を交えての発表に初めは戸惑っていた生徒たちも、次第に時事問題に敏感になり、また自信を持って話す態度に変わっていった。

(2) 進路学習新聞作り

3年生の夏休みに、各高校で、一日体験入学が催される。本校でも、多くの生徒が複数の高校に赴き、学校の概要や学習を体験することで、進路についての学習を深めている。

今年度は、その体験を「新聞」の形で表現することを試みた。実際に見聞きした情報を整理し記事にすることで、要点をつかむ力や文章力を伸ばそうとしたのである。更に、新聞の仕組みについて学習することで、まとめる力や構成力が身に付くと考え、講師を招聘し「新聞作成講座」を持つことにした。

① 新聞作成講座

「新聞の作られるまでと作り方」

講師：宮崎日日新聞社 読者室員

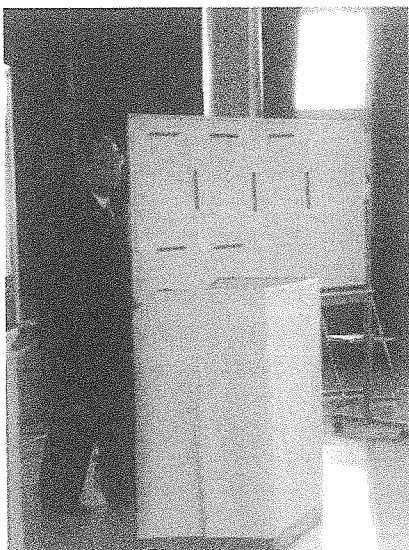
小川清一郎さん

② 新聞班・・・学級で3班から4班（一班7名～8名程度）

③ 計画作成

- ・流れ：記事の決定⇒記事の材料を収集する⇒記事を書く（原稿用紙：見出しを入れて330文字）⇒記事の校正（推敲）・レイアウト確認⇒記事の清書⇒新聞用紙に張り合わせる
- ・記事の材料を収集する（学科の説明・部活・生徒会活動・行事・卒業生の進路など）

高 校 名		高 校
何について記事にするのか（アイデアを出す）		○ ○ ○
決 定	内 容	
	見出し	



宮崎日日新聞社

読者室員
小川清一郎さん

・【班の進捗状況報告書】 9月7日（水）
()組()班 班長()

班員名	記 事 内 容	見 出 し
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

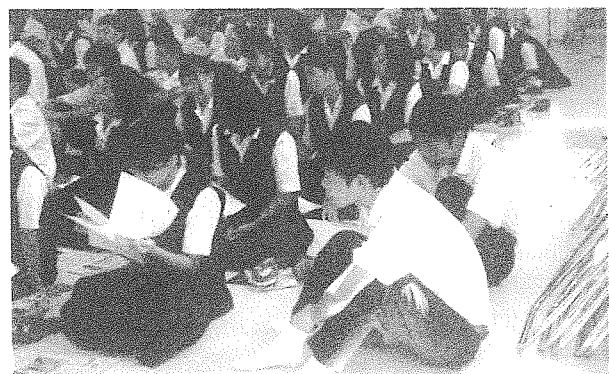
・【班の進捗状況報告書】 9月27日（火）
()組()班 班長()

班員名	見出し 完成	下書き 完成	推敲 完成	清書 完成
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

☆ 新聞完成・・・ 月 日 ()

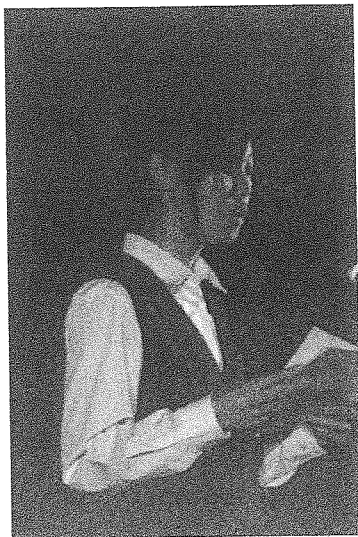
⑤ 文化発表会で掲示

⑥ 新聞作成のまとめと反省



① 文化発表会での国語弁論

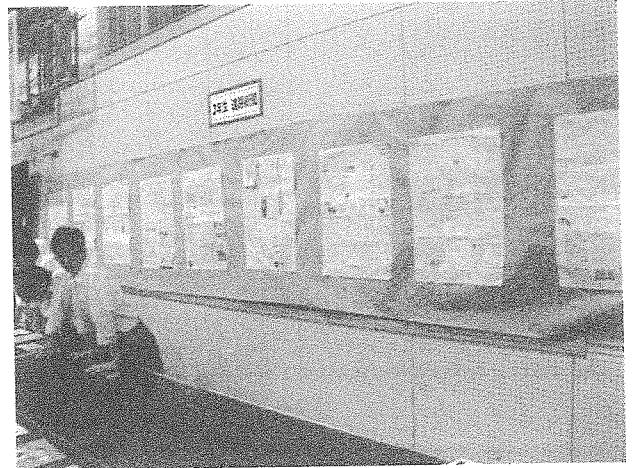
国語科には「話す・聞く」という領域がある。普段の授業では、発表や班討議で「話す・聞く」ことはできているが、まとまった論文を書いたり、話すことに時間が割けないでいる。さらに、作文は書いたことがあるが、論文は書いたことがないという生徒も多くいることを踏まえ、文化発表会での発表を念頭に、新聞からテーマを拾い、原稿用紙4枚程度にまとめることを夏休みの課題にした。しかし、夏休みの課題では、教師が手を入れることができないため、通り一遍の論文が目立った。幅広い視野を持たせるためには、多くの情報を必要とするが、新聞はそれに最も適した教材であると思う。新聞記事はさまざまな分野に渡って取材されており、生徒の興味を引くものが多い。そのような中で、生徒を一番ひきつけるのは、「環境問題」である。今回も「環境」をテーマにした論文が目立った。その論文から学年で1本を選び、文化発表会での登壇とした。3年生の作品は、世界における環境をテーマにした論文で、私たちの環境における関与を深く追求したもので、生徒たちの心をとらえた。



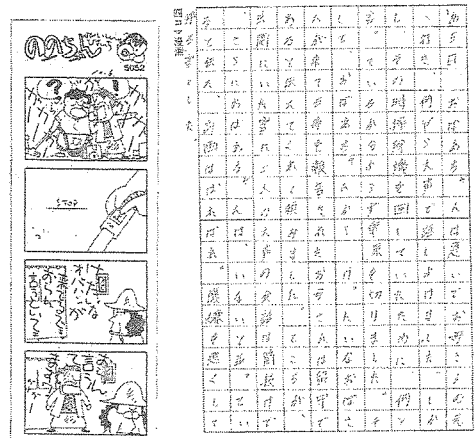
(文化発表会で論文を発表する三年生)

② 四コマ漫画を使つての指導

作文指導というと、従来は単元が終わってから、まとめとして感想を書いたり、与えられ



(文化発表会で「進路学習新聞」を掲示する) たテーマに沿って書くというスタイルをとっていたが、焦点が定まらず漠然とした文章が目立っていた。そこで、四コマ漫画を文章化するという試みをした。四コマ漫画は、起承転結がはっきりしているので、文の構成を学ぶことができ、また、説明することで、文を簡潔にまとめる力が育つと考えたのである。この実践は「冬休みの課題」として、3年生に与えた。授業の中でやり方を説明し、その後書かせてみたが、漫画の内容がつかめない生徒が何人かいた。その生徒たちには、一コマ一コマ説明を付け加えながら指導した結果、200字でまとめることができるようになった。



③ 新聞記事の要約と意見文

受験を目前にした冬休みの課題にもう一つ「新聞記事の要約と自分の意見を述べる」を加

